特255
927

贈呈

朝鮮工業協會
日本工業新聞京城支局
中外商業新報京城支局

米國の太平洋戰略

海軍大將 中村良三

納本

東京講演會刊

始

第255
927

米國の太平洋戰略

對日作戰と其の針路

海軍大將　中村良三氏講演

昭和十六年二月二十五日
於　芝公園・三緣亭
主催　東京講演會
速記　東京講演會速記部

明治十一年七月青森縣に生る。明治三十四年海軍少尉に任官、明治四十三年海軍大學卒業、昭和九年海軍大將となる其の間第二艦隊參謀長、第一水雷戰隊司令官、軍令部參謀海軍大學校長、軍令部出仕、第二艦隊司令長官、佐世保海軍鎮守府司令長官、艦政本部長、軍事參議官等を歷任し、昭和十一年三月豫備役となる。

一、太平洋を繞る對日包圍陣

この頃大分アメリカ問題が喧しくなつて來まして、方々から話をしろと言はれるのですが、どうも自分は話下手でありますが、本夕はイギリス、或はアメリカあたりではどういふやうに見て居るかといふやうなことを、主として御話申上げたいと思ひます。

この數日來、日本が南下をしたといふやうな噂が英國あたりから始つて、大變英米あたりでは騒いで居るやうであります。一體何故に騒ぐ樣になつたか。英米流に考へますると、日本の今の情勢は殆ど四年に亙つて、支那事變に沒頭して居る。兵を出すこと四歳に及んで百數十萬の軍隊を出して居る隨て日本の國力は非常に低下してゐると誤算してゐるのみならず、日本を繞る各國の動向を見ると、當の相手の支那は勿論のこと、英國、米國、蘭印は何れも日本の進出を抑へる爲に結束をして居る。北の方のソ聯も日本と爭はない程度に蔣介石を援助して、日本の國力消耗を待つて居る情況である。

第二の點でありまするが、歐洲大陸はヒツトラーに席捲されて、英國は殆ど孤立に陷つた。オランダも總て米國の援助を仰がねばどうにもならぬ。米國から援助を得るのだから、イギリスやオランダといふものは殆ど米國の言ひなり次第になつて居る。隨て英米蘭といふものは一體化し合つて、別なものと考へる譯に行かない。從來ならば米國と英國は並行政策を執るとか、或は同一の途を辿るといふことは、必ずしも豫期出來なかつたのであります。例へて見ると、この前の上海事變當時の如く、英國は米國の提案を受理しないで、スチムソンも遂に、その目的を達しなかつたのであります。又オランダとしても日本は怖いが、さりとて米國に全然依存するといふことは危險である。だから中立の方が宜しい。斯ういふ建前であつたものが、今日ではもう米國に賴るより外、仕方がないのであるといふことになつて來た。この英米蘭の一體化は太平洋に非常な危險を齎らしたのであります。

二、日米戰はゞ必らず長期戰

從來米國と日本と或は戰爭になるかも知れぬといふことが數回あつたのでありますが、それを前に遡つて考へて見ますと、日露戰爭が濟んだ直後、學童問題が發生し日米の間は極めて面白くなくなつた。以後米國は海軍を擴張するには、何でも日本を假想敵國と考へ、日本海軍を目標として軍備の擴張を行つて來た。併し中々日米戰爭といふものは起らない。

今まで日米の危機とも言はれることが數回自分の經驗でもありますが、併し多少問題が難しくなると、日本の讓歩に依り若くは向ふ側の緩和政策に依つて、その危機は今日までは、どうにか斯うにか切抜けられて來たのであります。これは一體どういふことであるか。大抵向ふは威嚇を以て日本に臨むさうして大體のことはこれで解決が付く。併し兵力を用ひる段になると、これは容易ならぬことになる。勝敗は兎に角自分の方に歩があるとしても、日米の戰爭は少なからざる日時を要する。短期間で日米戰爭は濟むのではないのだ。若し長期に亘るとすると、どうも富めるものは貧しいものよりも第三國に乘ぜられて損をする。さうすると結局得る所は失ふ所を補ふに足らない。金持は貧乏人とは喧嘩せざるが如く、持てる國米國は、持たざる國日本と喧嘩をするのは必ずしも有利ではないといふ風に考へて居つた。

何故日本と戰爭をして、そんなに長期になるのかと言ひまするると、向ふの領土は北太平洋にのみ限られて居り、太平洋を六千哩も經てゝ日本と米國は相對して居る。その間には北の方にはアラスカ、アリユーシヤンがあり、北太平洋にはハワイ群島、ミツドウエイ、グアム、フイリツピンがあり、南にはサモアがあるだけであります。日本と作戰をするにはどうしても自分の領土を經て東洋に出て來なければならぬ。故にハワイから順次西の方へ行つて、或はフイリツピンに着いて日本に對する作戰をやらなければならぬ。これを向ふの方では中央の進攻路と昔から稱へて居ります。所が困つたことには世界大戰の後、日本が內南洋を統治することになつた。米國の西岸から東洋に出て來る間に日本の島がある。抑々この島といふものは潛水艦の隱れ場所にもなるし、又飛行機の溜りにもなる。東西二千マイルに亘るこの間は、潛水艦、飛行機の巢のやうなものである。隨てこの近邊を通るといふことは極めて危險であるのであります。一氣に日本に殺到しようとすると、横の方から衝かれる。日本の近海に達せざる中に、相當の被害を覺悟しなければならぬ。斯ういふ作戰はどうも危險である。併しこの內南洋をその儘にして置く譯には行かないから、何とかしなければならぬ。それには東の方から順次に、この島を取つて、そこに前進根據地を置き、後方の連絡を安全にして日本の近海に進出すれば宜いといふことになる。

三、米國の對日封鎖作戰と中央進攻略

最も勇敢なる論者と雖も、ハワイから眞直に日本の東京近

海に現はれて、日本海軍と一戰を交へて雌雄を一氣に決しやうといふ論者は、私長い間向ふの文書を見て居りますが、遂にお目に掛つたことはないのであります。さういふ決戰をやらないのだから、この島を順次に取つて、西の方に出る。少なくともグアムに着いて、此處から日本に作戰をするといふ論者と、まだグアムからでは面白くない。フイリツピまで行つて、此處から作戰をしやうといふ論者と、二通りあるのであります。が併し何れにしても、この內南洋を逐次取つて根據地を押へながら、一歩々々西に進んで行くといふ方法は、長時日を要する。或る論者に言はすと、この作戰でさへ一年位を要するであらうといふやうなことをいつて居る人があるのであります。そこでぐづ〳〵して居ると、日本は多分フイリツピンもグアムも取つてしまうだらう。抑々フイリツピンはどれ位持つのかといふと、或る論者は一週間位より持つまい。更に極端なのは三日位より持つまいといふ論者もあるのであります。さうするとぽつ〳〵取つて行つて居る中には、フイリツピンもグアムも日本に落されてしまう。結局順次これらの小さい島を攻略して行つて、更に日本で取つたグアム、フイリツピンを奪還しなければならない。ではフイリツピンを奪還する作戰は、どの位掛るかといふと、約六箇月は掛るだらうと、向ふのものは申して居ります。

こゝで奪還して今度はどうするのか。奪還してフイリツピンまで出るといふことは、結局直ぐそこから出發をして日本の艦隊と決戰をしようといふのではなく、封鎖網を張つて、日本を包んでしまはうといふのである。東の方の兩米に對しては、日米戰爭になると經濟封鎖は完全に行はれる。併し日本はアメリカの方で止められたならば、總て南西の方から物を取つて來るであらう。さうすると幾ら東の方を塞いでも片方に拔道がありますから、封鎖は成立しない。これにはどうしてもフイリツピンを奪還して、これで南方の封鎖をすることに依つて、初めて封鎖は完成せられ、日本は物資に困り、又輸出貿易も出來ないことになるといふのであります。併し封鎖作戰といふものは長期作戰である。如何なる國と雖も封鎖されると同時に參つてしまう國はない。國內に若干の蓄へを持つたり、或は國民に斷乎として物資の不足を忍ぶといふ決心さへあれば、長く續くのであります。隨て日本に對する作戰といふものは、非常に長年月を要する。何かうまい工夫はないのか。そこで北方の進攻路といふものを考へたのであります。

四、北方進攻路の作戰的價値

それはアメリカの西岸からカナダの海岸を經、アラスカに行き、アラスカからアリューシヤンの西の方まで行つて、北の方から日本を攻擊して見ようといふのであります。それで米國は數年前からやつて居るのでありますが、目下澤山の金を投じ非常な馬力を掛けてシトカ、コジヤツク、それから一番西の方はウラナスカ、キスカに潛水艦と飛行機の基地を拵へるべく折角努力中であります。又その外に陸軍はアンカレツジ、フエアバンクスといふやうな地點に飛行機の基地を置いて居ります。今回はカナダとの共同防衛に依つて、カナダの沿岸にも飛行機の基地を置くことになつた。さうすると米國の內地からカナダの飛行場を經、アラスカに入る、この連絡は極めて容易に出來るのであります。

何故、このコースを取るのかと言ひますと、このコースは米國から日本に來るのに一番近い道なのである。橫濱から向ふのシヤトルに行く船は、この大圈コースを通るのであります。それからもう一つ良いことは、餘り日本の潛水艦のやうな奇襲部隊に襲擊される處れが少ない。と言ふのはこの澤山ある飛行場から搜索飛行機を飛ばして、空中から始終監視をし、その監視をして居る海面を通るのでありますから、大變安全だ。この點が北方航路を通るといふものゝ主張であります。それで今から三年前に、外國の船は、一切アリューシヤンの岸に近寄つてはいかぬといふやうな法律を出して居ります。今回又更に禁止地點を增してキスカ、ウラナスカ、コジヤツク、このあたりに外國の汽船は接近してはいかぬ。又飛行機で以て、その上を飛んではいかぬといふことを言つて居ります。

尙ほ米國で考へて居ることは、若しもソ聯と手を結ぶことが出來れば、このコースは最も良い道である。アツツ島には良い港灣があつて、大艦隊が入る。此處から橫濱までは——彼等は東京と言はず、橫濱といふのですが——二千百マイルしかなく、アツツ島を根據地にして、日本の近海を荒すのには、非常に都合が宜い。ソ聯と手を握ることが出來れば、更に要塞もあり、潛水艦の根據地を持つて居りますコマンドルスキーを使ふことも出來るだらう。或はカムチヤツカのペトロパウロフスクも使用可能かも知れぬ、又飛行機はアラスカよりシベリヤに出て、沿海州の方から日本を空襲することが出來る。兩面から日本を脅威するのに非常に都合が宜い。併しこれはロシヤと手を握るといふことを豫想してゞあります

ロシヤと手を結ぶことが出來ぬならば、一體どうしたければならぬかといふことは餘り書いて居りませぬ。

兎に角斯ういふコースのあるといふことは、日本の若干兵力をこの方面に牽制する爲に效果があるのであります。何分この方面の海洋といふものは風波が荒い。氣候は非常に寒い。どうも霧の懸ることが多いから、戰場に適せぬといふものがあるけれども、何も天候とか、氣象とかいふやうなものは、必ずしも自分の方ばかりに不利を齎らすものではない。日本軍と雖も同じやうに、それの害を受けるのであるから、必ずしも北方コースが天候、氣象の影響の爲に使へぬといふものではないと言つて居ります。

併しこれの不利な點は、北の方から日本を幾ら攻めても、經濟封鎖といふ見地に立つて考へて見ますと、日本の經濟的の動脈は南の方にあるのだから、この進攻路は甚だ價値の乏しいものであります。それで北方路といふものも案外面白くない。結局は初めに還つて中央から日本を進攻するより手はあるまい。併しこの作戰は先程もいつた通りに極めて長期の作戰になるのだ。これが今まであつた狀況であります。

五、南太平洋に於ける米國の戰略的立場

そこで日米戰爭といふものは、米國側から考へて見ても中中容易ならざる戰爭である。この前の上海事變に於てスチムソンが武力を用ひて日本と戰つて見ようと考へて、當時の軍令部長のブラット提督に相談をした。ところがブラット提督曰く、「どうも餘り勝算はない。この際は我慢した方が宜からう」といつて、却つて軍人の方から政治家を抑へて居ります。

所が今度はどうなつたか。先程言つた通りに、英國もオランダも自分の懷に飛込んで來たのだ。イギリス、オランダの領土といふものは勝手に使ひ得るのだ。そこに在る兵力も吾に加勢するのだ。飛行機も亦勝手に使へるのだ。斯ういふことになつて來た。イギリス、オランダが米國と一體になつたといふことは、殆ど南太平洋全部が米國の勢力範圍に入つたといふことであります。南太平洋では英國、米國、而してオランダの領土を除いてしまへば、後は小さいポルトガル領のチモルがある位のものである。併しポルトガルは御承知の通り英國の保護領といつても宜しい。この外フランスの領土がある。その中でもニューカレドニヤ、タヒチ島が一番大きい。又人口も多いのであります。タヒチ、マルケサス群島は、サモアとパナマ運河の間に線を引くと、丁度その中間位にあ

る島でありますが、これは先日ドゴール政權の手に入つて、フレー・フランス側に立つことになつた。ドゴール政權は英國の庇護を受けて、その下に立つて居る政權であるから、結局英國の息の掛らぬ島といふものは、南太平洋には何處にもないといふことになります。パナマ運河附近にはエクアドル領のガラパゴス島などがありまするけれども、これは中南米の弱小國であつて、何時でも米國は自由に沒收することが出來る。隨て今や太平洋といふものは一面に米國色に變つてしまつたと考へざるを得ない。

そこでこれらの島々が自分の領土と同じことだとしての作戰を考へて見ますと、中央路の如く、日本の內南洋に近い危險なる所は通つて行かなくても宜い。南の方を大廻りして、ずる〳〵とフイリツピンに行けば宜いのだ。地圖にもありますす通り、これはパシフイツク・エヤーウエイであります。米國の西海岸からハワイに一飛びに飛んで來て、ハワイからカントンに飛ぶ。このカントン、及びその側にあるカンタベリは二年程前に英米共用といふことになつた島であります。このカントンからニューカレドニヤのヌメヤに、ヌメヤからニユージーランドのオークランドに飛んで居ります。或はタヒチ島にも飛行場があります。又先日の新聞に出て居りましたけれども、ニューヘブリヂス島に飛行場の整備を早くして呉れといつて米國から濠洲に要求をして居るやうであります。ニューヘブリヂスからニューギニヤのモレスビーに行き、そこからマニラに飛んで行く。スターリング提督の言ふところに依りますと、このコースを飛べばハワイからマニラまでは三、四日で來られる。

六、米國の極東進攻作戰と其の公算

軍艦はどうなるかといふと、この間新聞に出て居つた船が近寄つてはいかぬといふ島は、ミツドウエイ、ジョンストンパルミラ、キングマン、ウエーク、それからサモアであります。のみならず他國の島は皆使へる。隨て北方の進攻路と同じやうに艦隊が進んで行く時には、これらの島の飛行基地に居る飛行機が皆空中監視をやる。日本の潛水艦が來やしないかといふので搜索をする。搜索をして安全だといふ時に進んで來る。又艦隊には航空母艦が居つて、それの飛行機が艦隊の廻りを始終監視をして居る。斯ういふやうに二重に警戒をして居つたならば、日本の奇襲部隊如何に勇敢でも中々吾に危害を加へることは出來まい。島は無數にあるのでありますから、水上飛行機を使用すれば、陸上飛行機と違つて、その

設備は必ずしもさう大なるを要しない。例へば或る島に一艘の船を碇泊せしめて置いて、これから油を補給してやる。又豫備品、附屬品、その他を準備して置いて、必要とあればモーターでも何でも取替へることが出來るのであるから、非常に便利だ。道中をするのに一寸も面倒がなくなつた。極めて安全感が高まつて來た譯であります。この島の間をずる〳〵と拔けて行くのだ。さうして行き着く先はフイリツピンであり、シンガポールである。

ところが、折角途中は安全であつても、行先が危險であつては、まだ完全だとはいへない。併し今までのやうに長時日を要しないで早く着けるのだから、フイリツピンも日本に取られぬ中に、こつちの方が先に行ける。今まではこゝに取付くまでに長時日を要するので、日本に取られてしまうのだから、幾ら守つてもいかぬといふので、從來餘り防備をしなかつたのであります。ところが今度は持てさうだ。取られてしまうまでには、こちらの方が行き着けるといふことになつた爲に、彼等は全部これを防備しなければいかぬといふことに意見が一致したといふことが、この間の新聞に出て居りました。持てるといふ見込みが付いたその結果でもありませう。

昨年の九月頃からだと思ひますが、第一番に飛行機をうんと殖した。陸軍の飛行機も海軍の飛行機も殖して居ります。それから海軍の方は驅逐艦の數も增し潛水艦の數も增した。

又數日前の新聞に出て居る通りに支那の北京、天津、上海の守備兵を交代させるといふことで、マニラから來たのか、本國から來たのかはつきりしませぬが、交代兵を運びつゝある。併し海軍の潛水艦の增加をした時の如く、交代だと稱して送つて來た儘、元のものも返さず、却つて增加になつて居るといふやうな例がありますから、陸兵の交代といふものも交代兵が本國に歸りまするかどうか、疑問があるのであります。糧食も蓄へて居る。それから各島の間の連絡を密にする爲に、頻りに連絡船を徵用して居るといふやうに、種々の防備行動を執つて居ります。英國のシンガポールなどは殊に大きく新聞に書いてあるから、別に說明を要しないと思ひますが、印度から、或は濠洲からどん〳〵空中輸送で以てシンガポールに飛行機を送つて居るやうであります。この大洋を飛んで二百機をシンガポールに送るといふことは、多少デマも混つて居るかとも思ひますが、斯ういふ南方コースを通れば相當な數は容易に送り得るのであります。

七、米國が急に强氣になつた原因

蘭印も亦相當の兵力を備へて居る。主として海軍でありますが、巡洋艦が三、四隻、それに驅逐艦、潛水艦、敷設艦といふやうなものも相當準備して居る。陸兵もオランダ人は殆ど兵役の義務を課せられて、老人は第二線を防備するといふことになつて居る。土民兵も相當に訓練をして居る。

海軍も濠洲、ニユージーランドの兵力を集めると、大したことはないが、やはり巡洋艦以下の艦艇があるのであります。飛行場は到る處にあると見ねばならぬ。飛行機の數も英國、米國、オランダのものを集めると相當の數に達すると思ふ。斯ういふ島の澤山あるところに飛行場がある。まるで飛行機の巢のやうなものであります。海は狹いから潛水艦の活躍に非常に都合が宜い。飛行場は何處にもあるから、海面を監視することが容易である。上から監視をして居つて、日本の艦船が來た時には直ぐに潛水艦に通知して、襲擊させる。又飛行機自體が艦船を襲擊しても宜しい。これでは南洋は一つの要塞のやうなものである。到底マヂノ線などと比べものにならない。さういふやうに完全に防禦されたところに自分が入つて行けるのだ。シンガポールを根據地にしマニラあたりを前進根據地とすれば、日本海軍は中々入つて來れない。即ち行先は極めて堅固なる陣地であるのであります。

それから封鎖はどうかといふに、封鎖は一擧動に出來る。唯アメリカが經濟斷交といふことを宣言さへすれば、それで宜しい。兩米の通商といふものが一遍に絕へると同時に、南の方も英國、オランダといふやうな國がアメリカに倣つて全面的に經濟封鎖をやり得ることも考へられる。

この考へが急にアメリカをして强氣に出るやうにさせたのであります。こんな好機會といふものは滅多にあるものではない。この際に於てこそ、日本の南進を阻止しやう。これが日米關係の極めて惡くなつた所以であります。

八、米國海軍部內の硬軟兩派の見解

日本はどうしても必要な物資を、この大東亞圈の中から取らねばいかぬ。支那及び滿洲だけでは、どうも十分だとはいかぬものが色々ある。どうしても蘭領を含み、佛領印度、タイを含んだるこの大東亞圈を、日本の掌握下に置かねば、日本は生存して行くことは出來ないのだ。故に大東亞圈を作るのは日本の國策である。この國策を英國から考へて見ると、これは自分の橫腹を衝かれるやうなものである。隨て日本に出て來て貰つては困る。米國としても日本を大きくしてしまつたならば、到底日本を制御することは出來ない。こゝに兩

方の政策がかち合つて居るのであります。故に日本が國策をもつと引込めるか、向ふの方が日本の生活圏を認めるかしなければ、この爭ひといふものは到底免れないのであります。

これもアメリカの新聞に出て居つたのでありますが、米國の海軍に二つの黨派がある。その一つはヤーネルその他東洋に長く居つた連中のいふことであつて、アメリカは直ぐに積極的に巡洋艦をシンガポールに出せといふのであります。巡洋艦といふのは、多分索敵艦隊のことをいふのであらうと思ひます。これに對して他の一派はいやそれはもう少し愼重にやらなければいかぬといふのであります。併しこれは二派ではないのであつて、唯ものゝ見方なのであります。一方の强硬論者のいふのはどうかといふと、艦隊全部をフイリツピンの方に移動させなくても、索敵艦隊だけを出して米國の決心さへ示せば、日本は直ぐに手を擧げるであらう。斯う見るのと、さうすれば日本は或は起ち上るかも知れぬ。戰爭になるかも知れぬといふのとの違ひであつて、一寸も日本に對して恐れをなすとか、戰爭をすれば不利になるのだといふ見方ではないのであります。さういふ點に於ては彼等は一致して居る。

それならば一體穩健論者は、日本が起ち上るといふことに付て、何を心配しなければならないかといふことになるのですが、それには吾々獨英の戰爭といふことを考へて見ねばならぬ。アメリカの方では兎に角英國はどうしても助けなければならぬといふことに付ては、國論が殆ど一致して居ると思ふ。ところがどうして援助するかといふと、陸兵といつて見たところで、送るやうな陸兵はないのだから、結局は空軍なり、海軍なりを送らねばならぬ。併しそれにはまだ餘り準備も十分ではない。海軍力に付て見ると、やはり日本といふものには是非備へて置かねばならぬ。空軍と雖も彼等もいつて居る通りに、さう澤山ある譯ではない。四千機位のもので、その中の大多數は練習機だとスチムソンがいつて居る。隨てこれからうんとものを作つて居るのだが、それには相當の時日を要する。今年の夏頃から次第に生産能力が殖えて來る。

九、對英援助に伴ふ米國の惱み

ところが尙ほ考へて見ると、兵器彈藥を送るといふことになつて來ると、これには船が要る。船は一體どういふ風になつて居るのか。米國人の書いたものに依りますと、英國の商船は戰前には約二千萬噸あつた。今日はどうなつて居るかといふと、ドイツの爲に沈められたものが約六百萬噸位あるのですが、それに對してフランス、オランダ、ベルギー、デンマーク、それからノールウエーといふやうなドイツに敗れた國々の船を大抵英國が收用してしまひましたから、大體同じ位である。その外傷んだものがある。英國の方では四百萬噸位沈められて居るといつて居るけれどもドイツの方では八百萬噸から沈めて居るといつて居る。その差はどうしたのか。それはドイツの方では沈めたと思つて居つたか知れぬけれども、どうにか斯うにか港に着いたものがあると見なければならぬ。これは傷んだのだ。さうすると四百萬噸位は傷んで今修理中であるが、實際には使へないのだ。ところが英國が軍需品、その他食糧を本國に運ぶ爲に、どれ位の船が要るかといふと、或る人は九百萬噸といひ、或る人は一千萬噸といつて居る。先づ九百萬噸から一千萬噸は戰爭をする爲にはどうしても要る。併し今運轉して居るのはどれ位あるかといふと千三百萬噸位しかない。こゝに非常な彼等の惱みがあるのであります。

もう始めたのか、來月頃から始めるのか知りませぬが、今度は潛水艦戰を盛んにやるのだといふことを、ヒツトラーが演說をやつて居るさうであります。こゝ二ケ月程は餘り沈めて居らぬのは、多分大攻勢に備へる爲の準備をして居つたのではないかと思はれます。今までのところドイツが一番よく沈めて居るのは、一週間に十萬噸餘りであります。第一次歐洲大戰の時は幾らであつたかといふと、一ケ月に八十七萬噸といふのが一番多かつたのであります。隨て今度の戰爭では前の戰爭の一番盛んであつた時よりも、まだ半分位しか行つて居らない。若しこの前の戰爭の時位沈めますと、英國は四箇月位で困つてしまうことになります。而もこの前の戰爭の時にはドイツ本國から北海を經て大西洋に出、さうして船を沈めなければならなかつたものが、今度はノールウエーの北からビスケー灣のフランスの南端迄の間からどん〳〵太西洋に出られる。のみならず今度は船を沈めるのに潛水艦ばかりではなく飛行機でどん〳〵沈めて居る。アイルランドの西七八百哩の外に於けるそれから內といふものは飛行機の行動範圍である。それから尙ほ水上艦艇の早いのを出して襲擊をさせる。僅か四百萬噸位のものなら、これらの襲擊を受けることに依つてイギリスの輸送船は非常に苦しくなつて來る。

一〇、對英援助か對日戰爭か

この間ウイルキーが英國に行つて歸つて來た時の話に、出來たものを一週間に四艘か五艘づゝ送つたら宜いではないか

といつて居ります。さうすると海軍長官のノックスが、いやとてもそんなには送れないといつたと新聞が報じて居ります。今起工して居つて今年中に出來る驅逐艦が米國にどれ位あるかといふと、四十艘位であります。又現在役務に就いて居る潜水艦はどれ位あるかといへば、百五十九艘とかいつて居ります。斯ういふ狀態の時に東洋作戰を行はうとすれば、さう澤山イギリスに船を渡す譯にはいかぬ。ところが渡してやらぬと中々船の護衛といふものはうまく行かない。護衛が不完全であれば商船が餘計沈められる。商船を供給するか、然らざれば護衛艦をもつと增さねばいかぬ。この點が米國として非常な惱みだと思ふ。

況んやドイツは潜水艦戰を始めると英國の海軍として商船護送にもつと力を入れなければならぬ立場になる。一方陸上空襲を加へて彼等の工業力を破壞する。彼等の空軍を叩き付ける。それで弱つた處に乘じて一擧動に上陸作戰を敢行する。英國本土をドイツに取られるといふことは米國としては中々忍びないのであります。英國本土が、ドイツに取られると、ドイツの工業力は英國の工業力、フランス、ベルギー、オランダの工業力を加へ、それにイタリーの工業力を加へると、アメリカの大工業と雖も其の三分の一、或は五分の一になると米人は言つて居る。今でこそ英米力を合せれば、獨伊の工業力に追付く、或はこれを凌駕するといふ望みはあるけれども、英國を失つた後の米國一國だけの工業力では、如何に海軍の擴張をやり、陸軍の大擴張をやつて見ても、獨伊には敵はない。若しも英國の艦隊をドイツに取られてしまうといふことになつたならば、日獨伊の海軍力は米國を凌駕してしまう。さうなればいつ敵襲を米國大陸に受けるやうになるかも知れぬ。これが彼等の心配である。ドイツの春季攻勢、これは四月から始まるか或は六、七月になるか知れぬけれども、これで英國か今年中持つといふ見當が付いた時は、直ぐに太平洋に船を出して日本を片付けろといふ說があるのであります。先程の例の强硬派の如くに素敵艦隊をシンガポールにやる。そこで日本が起ち上つて日本戰爭となれば、力を太平洋にも注がなければならなくなる。その時に英國はどうなるか分らぬ。もう少し力を注げば英國は持てるものを自分が太平洋に餘り深入りした爲に、その援助が薄くなつて英國が倒れたといふことになつて來ては困るのだ。これは軍令部長スターリングとか、元の軍令部長のプラットあたりが唱へて居るのですが蓋し穩和派なるものは、日本が起ち上るかも知れぬのだから餘り早まつてはいかぬ。こゝのところもう少し見極

めてやれといふのであつて、穩和派と强硬派の差別の付くのは、唯時機の問題であります。

一一、地中海の形勢と極東への影響

それから英伊の戰爭でありますが、地中海の戰爭も東洋の局面に大なる關係を持つのであります。今の所どうもイタリーの旗色が惡い。アルバニヤでもイタリー軍は希臘軍に追はれて居る。チウニスとシチリヤ島との間にあるパンテレリヤには要塞が置いてあるのですが、それにも拘らず、この狹い海峽を商船を引連れた英國の艦隊が通うて居る。英國潜水艦の活躍に依つて、イタリヤ本土と僅か五、六十哩しか經てないアルバニヤとの間の兵員輸送、及び軍需輸送が意の如くならぬ。リビヤ方面はどうかといふと、リビヤの東半分のキレナイカ地方は英國に殆ど占領されてしまつて、後のトリポリの半分だけが殘つて居るといふやうな狀況である。先年取つたエチオピヤでは、三方面から攻擊を受けて、補給が意の如くならず空中輸送より外ない。英國は約半分に近い主力艦隊を地中海に置いて居るやうであります。併し驅逐艦その他に至つては、今米國から五十艘貰つたので英國には二百二十艘あるさうでありますが、その中大西洋方面、本國方面に置いて居るのが百五十艘、その他の七十艘を地中海その他に配つて居る。斯う米國は報じて居ります。ですから補助艦艇は地中海には必ずしも多くないやうに思はれる。

併しイタリーの海軍が餘り活躍せないといふことになつて來ると、戰況は英國側に非常に有利になつて、そこに海軍兵力の餘力を生じます。餘力が生ずると、これを何處に持つて行くかといふと、地中海艦隊は昔から一旦有事の時には極東に送るといふ建前でありますので、その地中海に於て生じたる兵力餘剩といふものは、極東に廻航せられるものと見ねばならぬのであります。これが地中海作戰の經過が、極東方面に大なる影響を持つといふ所以である。

一二、英米の日本南下宣傳と其の魂膽

先日英國は頻りにデマを飛ばして、日本の艦隊が南下を始めたと宣傳し、念に兵力を增加したやうであります。これに對して日本人は極めて樂觀的だと言ひますか、英米が周章てものだといふやうに解釋して居るやうでありますが、私はどうも眉唾ものだと思ふ。彼等は餘り無駄なことはやらない。東洋に對して兵力を移動して來るといふことは、日本を徒らに刺戟し、それから世界的にも何となく面白からざる印象を

興へるかも知れぬから、彼等の行動を合理化するやうな手を打つて來る。何かやらうとする前には或は外交なり宣傳なりの手を打つて彼等のやることを合理化する。彼等が兵力を移動せんとする時には、その兵力移動を合理化する爲に、これは防禦的なのだ。日本が來るから俺もそれに備へる爲に斯うしたのだといふやうな印象を世界に與へるやうに出て來るのであります。殊に一方から考へますとドイツの春季大攻勢が今にも始るかも知れぬ。その時に一番苦しいのは何かといふと、日本は獨伊と策應して大攻勢が始まる時に、日本も起ち上るかも知れぬ。これが彼等の惱みであります。故に日本がこの時に起つてはいかぬから、兎に角兵力を增備して、日本を起ち上らせまい。その兵力移動をするに當つて、唯ぞろぞろよこす譯には行かぬから、言を日本の南下に藉つて、これを合理化する。兎に角米國にしましても、英國にしても、日本を兵力的に威嚇したならば起ち上るまいといふやうな空氣が、餘程强いやうに思ふのであります。又起ち上つてもこれ位の構へをして置けば一向差支ないのだ。又或る論者のいふが如くに、日本が米國や英國と戰はないといふ決心をすると、支那事變は收らないであらう。さうすると二年經たざる中に日本は社會革命を起すかも知れぬなどといふべら棒なことを書いて居る米國人がある。彼等の考に依りますと、日本が戰爭をせぬといふことになると、兎に角俺の方は南洋の方は自分のものなのだ。幾ら日本が大東亞圏といつて見たところで、それは唯空論に過ぎない。この情勢にあつては、支那人の性質から見て、弱いものを助けて强いものに抵抗する所の支那人ではない。强いものに付くといふことが支那人の今までやつて居る所であるから、支那は自分の側に付いて來るこれで行きさへすれば、もう日本人は支那事變も解決出來ない。南方の大東亞圏も確保することが出來ない。さうすれば日本は日本本國に閉じ籠るより手はないではないかといふやうなことを、彼等は豫期して居るものゝ如くであります。日本が三國同盟を結んだ以後は、宥和政策といふものは取れないので、兎に角日本に對しては强く〳〵出たければいけないのだと彼等はいつて居る。日本も如何に宥和政策を取らんとしても、斯ういふ時代になつては成功するものではないと私は思ふのであります。さうすると結局我々の實力を涵養するより外にない。あらゆる事態に應じ得るが如き待つあるを待む實力と心構が必要なのであります。

これで私の講演を終りまして、後は御質問に御答へ致したいと思ひます。（拍手）—速記原稿海軍省檢閲濟—

411
218

▷▷▷米國の太平洋戰略◁◁◁

昭和十六年六月一日印刷
昭和十六年六月五日發行

〔非賣品〕

東京市日本橋區通一ノ四
編輯發行兼印刷者　野口保元

東京市豐島區高田南町二ノ三五七
印刷所　ユニオン社印刷所

東京市日本橋區通一ノ四
發行所　東京講演會出版部
電話日本橋(24)〇〇〇八番
振替東京一五二五五番

不許複製

終